特集 学生による特色ある授業紹介

松江キャンパスには、健康栄養学科、保育学科、総合文化学科の3つの学科があり、学生たちはそれぞれの専門領域で特色のある授業を通して色々なことを学んでいます。今回は、そのうちのいくつかを学生がご紹介します。

「保育内容言葉Ⅰ・Ⅱ」

保育学科1年　三島 愛莉紗

保育内容言葉Ⅰ・Ⅱの授業では、子どもの言葉の育ちを保育者との関わりや日常生活、絵本などの児童文化財から学んでいきます。具体的には、遊んでいる子どもにどのような言葉がけや援助をするのかといったことや、実体験から言葉を育む保育環境について考え、また利き手ではない方で文字を書いてみて書くことの難しさを感じ、幼児期の書き言葉について考えていくこともあります。また、実際に絵本を手にとって絵本に親しみグループ発表を行うことで言葉についての理解をより深めていく活動もあります。私はこの授業から、子ども自身が言葉に興味を持ち、言葉の育ちを促すような環境を作ることが保育者の役割であると感じました。難しい内容ではありますが、グループ活動の中で他の学生の意見が聞けるので様々な視点から学んでいくことができます。また、先生が世界の変わった絵本を沢山紹介して下さるので楽しく学ぶことができます。

「美術工芸B」

保育学科2年　古川 美雨

美術工芸Bでは様々な製作活動を行いますが、その中でも廃材を使った物作りが印象に残っています。1つは、立体的な紙お面作りです。このお面は、キャラクターの顔や、頭の上の部分や、後頭部や、側面も全て再現します。作る時には、紙袋の周りに丸めた新聞紙を貼り付けて、キャラクターの丸みを付けていったり、外側を色画用紙で仕上げたりします。紙袋は丈夫で、周りに新聞紙をたくさん付けても重みに負けることなく中の頭の入る空間ができました。また新聞紙は手で簡単にちぎることができ、自由な形を作りやすく、軽くて量もたくさんあるため、このお面作りに最適な廃材でした。2つめは、キャンドル作りです。ペットボトルに粘土を付け、色付けをして仕上げます。粘土を付けやすくするために水を使って柔らかくして、手触りを楽しむこともできました。ライトを灯すと、粘土が付いていない透明な部分から光が見えてとても綺麗な仕上がりになりました。この授業では製作を通して廃材の特徴を知ることができ、また作る楽しさを感じることができたため、来春から保育現場で働く私にとって、とても役に立つ体験でした。

「文化情報誌制作Ⅱ」

総合文化学科2年　石飛 晴菜

「文化情報誌制作Ⅱ」は、総合文化学科で発行している文化情報誌『のんびり雲』を制作する授業です。『のんびり雲』は、企画から取材、誌面レイアウトまですべて学生の手で作られています。編集作業では大変なこともありましたが、その分完成したときにはとても大きな達成感を感じました。

この授業の一番の魅力は、たくさんの経験をして成長できることだと思います。編集部員のみんなで山陰の小さな文化を探し、様々な場所に取材に出かけます。私はふるさとの多伎町の海で食材を探しました。小さな文化とともにたくさんの人の笑顔と出会うことができました。山陰に住んでいても、知らなかった場所や普段は行けないような場所にも行くことができ、たくさんの貴重な経験をすることが出来ました。そして、それは、学生時代の大切な思い出の一つにもなりました。

自分たちが一生懸命作った『のんびり雲』で、山陰の魅力を発信することができる！文化資源学系ならではのとても素敵な授業ですよ。

「英会話A」

総合文化学科1年　植山 莉耶舞

「英会話A」では、日常生活で使うような英語で文をつくったり、ペアになって会話したり、英語を使ってゲームをしたりなど、楽しい体験の中で英語を使います。また、外国の学生との交流の機会も設けられています。例えば例年5月には、アメリカの南ユタ大学から、20人ほどの学生たちが来学して交流しますが、今年(27年)も、一緒にトークしたり、ドッジボールをしたりして楽しい体験になりました。英語を使って話すのは、最初少し恥ずかしかったりしますが、みんなで楽しくやりとりをしながら話すと気軽に使えるようになって、とっても‘クール’です。この授業では、英語の能力も上がり、英語を使って話すのがとても楽しくなります。将来の後輩!?のみなさんにも、ぜひ受けてもらいたい授業です。

「キッズ・イングリッシュ」

総合文化学科2年　山尾 紗矢

「キッズ・イングリッシュ」は、小さな子供たちに向けて英語の絵本や紙芝居の読み聞かせをしたり、英語の歌を歌ったりして、遊びを通して英語に触れてもらう授業です。松江キャンパスの近くにある乃木小学校や、学内にあるおはなしレストランライブラリーで実践を行っています。また、松江キャンパスの大学祭(飛鳥祭)でも活動しています。この授業のいいところ、特色は、小さな子供たちへの読み聞かせを通して、伝統的なものから現代的なものまで、英語の歌やお話を覚えることができ、担当の先生方による英語の発音指導なども受けながら、子供たちだけでなく、学生たちも楽しんで英語力を向上させることができるところです。また、子どもたちが初めて英語に触れる機会に携われることにやりがいを感じます。

「解剖組織学実験」「調理実習」

健康栄養学科1年　石本 あかり

私が一番印象に残っている授業は、解剖組織学実験と調理実習です。解剖組織学実験は、マウスの解剖を通して体の仕組みを知ることを目的とした授業で、とても衝撃的でしたが、そのおかげで難しい解剖学の理解を深めることができたと思います。調理実習は、和洋中さまざまな料理に挑戦し、苦労することも多かったですが、回数を重ねるごとに調理技術の向上とともに、段取りよく調理することを学びました。この経験によって、物事を順序良く進める力が身に付いたと思います。
専門科目が多く学ぶべき内容も多いため、実業高校出身の私にとって入学当初は大変不安でした。しかし、先生方に気軽に質問し、また教え合える友人ができたことで、難しい内容もしっかりと身に付き、今では安心して授業に臨むことができています。栄養士になるためにはまだまだ勉強すべきことが沢山あります。どの分野も難易度は高いですが、卒業までの時間でできる限り知識を蓄えるために、これからも頑張ります。

「地域の特性と食材利用」

健康栄養学科2年　財前 有貴子

「地域の特性と食材利用」は、島根県の作物生産や生活・文化の地域特性等を学び、さらに加工食品、機能性食品について理解を深める授業です。この授業の特色としては、授業を通じて島根県についてもっと知ることができ、また、他県から来た人は自分の県と島根県との違いはどういった点があるか、という観点から授業を受けるととても興味深いです。逆に、島根県民の方も知っているようで知らないことや、当たり前だと思っていたことが、島根県ならではだったということを知ることができ、楽しいと思います。例えば、私はあご野焼きや板わかめの存在をこの授業で初めて知りました。また、宍道湖や中海は淡水と海水が混じりあった汽水湖であり、塩分は宍道湖は海水の約1/10である0.3～0.5%、中海は海水の約1/2である1.5～2.0%含まれているなど、知識が広がります。
この授業の利点は、島根県の特産品や料理、歴史等を知ることによって、島根県で働く際に献立作成に活かすことができたり、就職先での利用者さんと会話をする上での知識にも役立ちます。また、島根県で働かない人でも残りの学生生活の内に行っておきたい場所が見つかったりと、とてもオススメの授業です。
この授業を受け、私は島根県がさらに好きになり、もっと知っていきたいと感じました。そのため、地元に帰る前までに授業で気になった地域に出向き、そこで特産品を食べたり地域の方と接する中で、島根県の良さをもっと知っていきたいと考えています。そして地元に帰った際に、一人でも多くの方に島根県の良さについて広めていきたいと思います。

「地域探検学」

総合文化学科1年　安達 優華

この授業はたくさんの出会いがある素敵な授業です。夏休み中に行われる集中講義の1つで、奥出雲町で2泊3日の合宿を通して地域の魅力や課題を見つけます。木原村下から伺うたたら製鉄のお話をはじめ、農家を訪問して伝統的な生活文化のお話をお聞きし、地域の方たちをお招きして発表したり、郷土料理をみんなで作ったり、農業体験、そば打ち体験をしたりなど、いつもはできないような体験をたくさんしました。もちろん観光もしました。
食べ物もおいしく、自然も豊かで空気もきれい。このような奥出雲町で私が見つけた1番の奥出雲町の魅力は人々の温かさです。大学生を温かく受け入れ、もてなしてくださり、たくさんお話をしてくださいました。奥出雲町はとても素敵な地域でした。この集中講義でたくさんのことを学びました。

「読み聞かせの実践」

総合文化学科2年　村口 麻由

この授業では、絵本の読み聞かせを通して地域の子どもたちと交流します。私たち学生は、学内で絵本選びや準備を進め、幼保園のぎや乃木小学校へ出かけて行きます。そして、幼保園のぎでは学生同士でペアを組んで、絵本を読むだけではなく、手遊びやクイズなどを行い子どもたちと一緒に楽しい時間を過ごします。また、乃木小学校では、授業の始まる前に、朝の読み聞かせを行います。読み聞かせは、低学年だけではなく、高学年の児童にも行います。子どもたちの年齢層に合った絵本選びの難しさ、反応がダイレクトに伝わってくる実践の緊張感は、充実感を与えてくれます。実践を通して、子どもたちを楽しませるためには、まず自分が楽しむことも重要だと実感しました。次々と新たな楽しさを見出していける読み聞かせは、その奥深さだけでなく、人の笑顔の大切さを教えてくれます。

「日本古典文学入門」「日本古典文学を歩く」「古文書を読む」

総合文化学科2年　安井 愛

私は日本史が好きなので、歴史が学べる授業を紹介します。それは「日本古典文学入門」と「日本古典文学を歩く」、そして「古文書を読む」です。歴史を学ぶということは、当時の人たちの暮らしや価値観を理解することだと思います。最初の2つの授業では、『古事記』と『出雲国風土記』に関する文献・物語の現代語訳を読み、テーマを決めて調査・発表することで、当時の文化や社会情勢といった背景を学び、舞台となっている松江・出雲の神社や遺跡、古墳などを訪れ、実体験として新たな発見ができ、理解を深めることができます。また歴史を調査・研究をしていると古文書に触れる機会も多くあります。そこで、くずし字について学ぶのが「古文書を読む」です。くずし字辞典を片手に古文書を読みます。だんだんと字の形を覚え、辞書を活用し、読むことができるようになると面白くなります。このように自分自身で歴史を探究する力をつけられます。